



土木学会認定
CPDプログラム

(社)土木学会 関西支部 FCC2003

第5回 FCCサロン

スペシャルトーク第2弾「どうしてもできない！ LRT」

日時：平成16年1月23日(金)18:30～

会場：新阪急ビル12階 スカイルーム 会議室1+2

参加者：145名(パネリストを含む)

パネリスト：路面電車と都市の未来を考える会(RACDA)会長 岡 将男
都市交通研究家 服部 重敬

特別ゲスト：フランス・セマリー社 副社長(マーケティング・広報担当) ソフィー・ペリヤシャルラズ
コーディネータ：兵庫県 県土整備部 交通政策課 主査 本田 豊

平成15年10月10日の第3回FCCサロンでは、スペシャルトーク「どうしてもできない！ LRT」を開催し、123名のご参加をいただき、大盛況のうちに終わりました。しかしながら、90分という時間制約のため、「LRTがどうしてもできないのか」については、多少なりとも議論できたものの、「どうすればLRTの導入ができるのか」について議論するだけの時間がありませんでした。

今回、参加者からのご要望等を踏まえ、第5回FCCサロンではスペシャルトーク第2弾「どうしてもできない！ LRT」パートと題し、岡将男氏と服部重敬氏を再度お迎えして、10月10日に行った議論を引き継ぎ、国内でどうすればLRTが導入できるのかについて話題提供することとしました。そして、実際に欧州各地でLRT導入に携わってきたセマリー社のソフィー・ペリヤシャルラズ副社長を特別ゲストとしてお迎えし、会場の参加者との議論も交えながら、再度「どうすればLRTの導入ができるのか」について考えることとしました。

1. プログラム

第5回FCCサロンは、下記のプログラムにしたがって進められました。

- (1) 日本と世界の路面電車の動向 / 服部 重敬
- (2) 岡山市におけるLRT導入に向けた取り組み / 岡 将男
- (3) 行政からみたLRT導入への課題 / 本田 豊
- (4) どのようにしてLRTを導入すればいいのか / 服部 重敬・岡 将男
- (5) LRTを導入するには何が必要か / 本田 豊
- (6) 会場との議論

2. 内容

各講師による内容については、別紙プレゼンテーション資料(P.5以降)をご参照ください。

3. 会場との質疑・応答

(1) 講師への質疑・応答

Q1. 行政(市長)のトップダウンでLRT導入が打ち出されたときに、組織としてはどう対応すべきだと思うか。また、バランス重視の行政では、なかなか交通の専門家を養成しようとしても難しい面があると思うが、どういう形でそれをクリアすればよいのだろうか。

A1. 岡山市では、市長のトップダウンでLRT導入を打ち出すことができなくもなかったが、導入した結果大赤字になる可能性があったため、打ち出すまでには至らなかった。また、行政内の交通の専門家養成という点については、行政に専門家を求めるのは無理だと思うので、その代わりに市民団体がその一翼を担うという形で取り組んでいかなければダメだと考える。

Q2. LRTが導入できない理由の一つに、警察が交通管理の権限を持っているからということが挙げられると思っているが、地方分権を進めて市長の判断で交通規制を行えるようにすればいいのではないかということについて、どう思われるか。

A2. 交通警察が市民のもとにないことは事実だが、国家警察を市民が動かすのにはさすがに無理がある。一方で、センスのいい県警本部長が来れば、考え方がパッと変わるといのが警察の世界だと思うので、各地で地道な活動を続けていく中でチャンスを見つけるといった取り組みでがんばることが大切ではないかと思っている。

なぜ警察が交通規制を嫌がるのかということ、道路利用者からのクレームに対して、最も負担がかかるのが末端の警察官だからである。警察にクレームがこないようにするためには、交通規制の必要性を住民に十分理解してもらうしかないのではないかと。たとえば、路面電車の通行帯の確保のために、最もネックとなっているのが違法駐車の問題であるが、長崎市や金沢市では違法駐車が非常に少ない。これは、やはり警察による交通規制に対して、両市とも住民の意識が高いことが理由ではないかと思われる。

Q3. 公共交通の信用乗車を実施する方法は何かないだろうか。

A3. 信用乗車は、ICカードでやっていくとか、バスカードでやっていくことから取り組むことが大切であり、現状ですぐに信用乗車システムが導入できるかということ、非常に難しいと思う。なぜなら、事業者は信用乗車システムの導入によって赤字になることを怖がっているからである。したがって、直接事業者に対する運賃補填でなくても、他のことで事業者を補助できる仕組みを考えることができないかと思っている。

信用乗車システムの導入ばかりを気にしているとLRTの本質論を見失ってしまうので、まず進めるべきはLRT導入であり、信用乗車にこだわる必要はないのではないかと考えている。

(2) 仏・セマリー社への質疑・応答

Q4. LRTのコンサルティングはビジネスとして成り立つと思われるか。

A4. コンサルタント会社といっても、セマリーのような会社は運輸システム全体の導入監理業務を行う能力があり、二重の意味で優位性を持っている。このような能力、権威を有する会社にコンサルタント業務を依頼することは、種々なレベルで保証が得られる

ということになる。調査にはしっかりした裏付けがあり、現実的である。経験とグローバルなビジョンを有するコンサルタントは、それぞれの段階におけるエンジニアリング業務分野における様々な要素のつながり、相互関係を完全に把握しており、エンジニアリング業務分野における知識経験工事を適切に監理し、所定の工期に引き渡すことを可能にする。セマリー社が行う調査は、達成した事業同様にしっかりした実績として役立っている。

また、ヨーロッパにおいては、知的財産権の価値がよく認知されていることから、業務に見合った対価が得られることも大きな助けになっている。

Q 5 . 日本の L R T の取り組みに対する客観的な評価をいただきたい。

A 5 . 日本における状況をよく理解していないので、フランスにおけるコンサルタントとしてのアプローチについて述べるなら、あらゆる交通システムの導入にはアップストリームの徹底した調査が必要である。全ての前提条件を真面目に分析することによってのみ、この問題を解決することができると思っている。通常、専門家チームによる調査は一年足らずで行うことができ、専門家チームは交通経済と関連する法制度や制度上の問題と組み立てる専門家をリーダーとし、アーバンアーキテクト、及びシステム、車両、各種機器、土木のほか、地元の課題に通じたその国の専門家たちによって構成されている。セマリー社は、欧州各地でこのようにして調査を行ってきた。また、これまでの知識と経験をベースに、戦略調査、フィージビリティスタディー、予備調査、実施事前調査などを行い、L R T の導入を支援してきた。現在、世界で総延長 45km の L R T プロジェクトの建設工事が地元業者によって着々と進められている。



4 . おわりに

今回のサロンは、前回のサロンが 90 分という時間制約があったため、再度 120 分という時間をいただいたお陰で、かなり深い議論ができたように思います。

また、サロンの後は、場所を移して懇親会も盛大に行われ、フランス・セマリー社のソフィー・ペリヤシャルラズ副社長のほか、フランス総領事館の Paul de OLIVEIRA 商務参事官なども交え、約 40 名のご参加による国際色豊かな懇親会となりました。参加者同士による有意義な意見交換会の場になり、参加者の皆さんにはとても好評でした。

最後になりますが、二度にわたるサロンでご講演いただいた講師兩名に深く感謝いたしますとともに、有意義な機会を与えていただいた F C C メンバーの皆さまに感謝申し上げます。

以 上

【講師のご経歴】

岡 将男（おか・まさお）

1954年岡山市生まれ。1977年東京大学経済学部経営学科卒。中国食品工業株式会社代表取締役社長。路面電車と都市の未来を考える会(RACDA)会長。全国を佃煮製造業の営業でまわり、まちづくり運動に参加。1985年ホバークラフト京橋就航運動、1987年内田百間顕彰運動などを経て、1995年RACDA設立。

著書に「岡山の内田百間」(日本文教出版)、「路面電車とまちづくり」(共著、学芸出版社、1999)。現在、国土交通省TDM実証実験懇談会委員、同広域的な公共交通利用転換に関する実証実験懇談会委員。岡山県ふるさと村町並保存研究会委員。

服部 重敬（はっとり・しげのり）

1954年生まれ。1976年富山大学経済学部卒。同年名古屋鉄道入社。広報宣伝部、人事部課長などを経て、現在名古屋国際芸術文化交流財団へ派遣され広報部長。1998～99年「名古屋市総合交通21検討委員会」委員、1998～2000年電気学会「LRTシステム技術調査専門委員会」委員。

主な著書に「路面電車とまちづくり」(分担執筆、学芸出版社、1999)、「都市と路面公共交通 欧米に見る交通政策と施設」(共著、学芸出版社、2000)。また「米国における公共交通の再生とまちづくり」(アーバン・アドバンス No.17、財名古屋都市センター、2000)など執筆や「路面電車を活用したまちづくり」(平成14年度第2回路面公共交通研究会、2002)など講演多数。現在、「鉄道ファン」誌(交友社)に「都市交通新世紀 - ライトレールの時代」を連載中。